

黒田（新姓 西川）美喜さんへの インタビュー

【プロフィール】

1980年生まれ。三小6年のときに平和作文に応募し、最優秀賞受賞。高校は一年間アメリカ短期留学し、その後アメリカの大学に留学。現在アメリカNY州南部の退役軍人が多く住む地域に在住。三児の母として近くの学校で臨時職員として手伝いをしている。



Q 1：平和作文を書いた頃の思い出は？

A：学校で募集のチラシが配られて興味をもち書くことにしました。闘病中だった父のアドバイスを受けながら何回も推敲して仕上げた記憶があります。湾岸戦争があった頃なので、平和について考える雰囲気があったのかもしれませんが。家には、「はだしのゲン」や同じ作者の「ユウカリの木」をはじめとした原爆や沖縄を舞台にしたマンガが沢山あり、こわいところは飛ばしながらこっそりと読んでいました。家では大人たちが世界の動きについてよく話していて、それを聞きながらときたま、「なんで？」等と質問したりしていました。映画もよくみにいく家庭でした。その頃から英語が好きで異文化への興味もありました。

Q 2 : アメリカに住んで見えたことは？

A : 戦勝国の特徴か、軍人の地位が高いです。普段は平和的でも、何かあると悪人をやっつける為には戦争は必要で軍力は強くしなければと考えるのが主流に思います。

もちろんアメリカも平和的解決志向の人たちもいますが少数派。それに比べると日本人は平和志向が強い様に思います。世界的に見ると日本が少数派かもしれませんね。国を愛する＝自由と民主主義を愛することで、それを守るために戦争するのは仕方がないという考え方は政治的意見というよりは、アメリカに根付いている歴史的文化ではないかとも思います。

こうした土地に住んでいると、悲しいことですが現実的には争いのない世界って難しい！と感じています。

q : 日本は空襲や原爆で戦争被害を受けていますが米本土では戦争の直接被害を受けた地域が少ないことも関係しているのでしょうか？

a : そうかもしれませんね。

Q 3 : アメリカでは、核兵器についての関心は？

A : 日本ほどありませんが、若い人ほど関心が高い気がします。日本への原爆投下については若い人ほど、投下すべきではなかった、という率が高いです。戦争の兵器のひとつとして考えているようで、使いたくはないが、ないとロシアに対抗できない、という位置づけだと思います。

q : 日本では、ベトナム戦争に行った米兵の中に PTSD がでて麻薬使

用の兵隊もいると聞いたりしますが、その辺は？

a : ベトナム戦争はアメリカにとって苦い経験となった戦争です。9.11 の同時多発テロ事件後に始まったアフガニスタンの戦争もアメリカ政府への不信感を高めた戦争です。米兵の PTSD や麻薬中毒の問題は、頻繁にニュースで取りざたされますが、解決の方向に進んでいるとは思えません。個人レベルではあまりオープンにはされません。表に出すことではないと考えているようです。軍隊に一定期間服役すると、学費免除や各種保障などの利益があり、何より軍隊に志願した人は愛国心のある人と思われています。政府や軍が自分達にとって不利益な情報を隠すこともあり、退役軍人の健康被害の実態が公表されることは難しいと思います。

Q 4 : これまでの日本・世界の事件・戦争・などで考えたこと感じたことは？

A : 9.11 のときはアメリカ留学中で、突然授業がなくなりびっくりしました。そしてアメリカ社会はそれまで「平和的」な空気でしたが突然、熱狂的な愛国心や闘う意欲が社会全体を覆い「大量破壊兵器をもつアフガン」への戦争に突入。その急な変わりように「怖いな」と痛感しました。その頃、中東出身者への差別もおこってきました。その後、大量破壊兵器は見つかりませんでした。

3.11 では、日本はその後原発廃止の方向に当然いくと思いましたが、世界を原発反対のうねりに持っていくどころか、自国の再稼働もありの動きに、とても残念と思いました。3.11 後、放射能が子どもに与える影響が怖いので 5 年間帰国しませんでした。戦争で、原発を狙われたら核兵器のような凶器となりえる原発には

反対です。ロシアのウクライナ侵攻では知り合いにロシア人やウクライナ人がいて、とても戦争が身近なものに感じられます。戦争によって個人の信頼関係、友好関係が失われるのはとても悲しいことだと思います。

Q5：異文化の中で思うことは？

A：「平和」というものの定義がそもそも違う国であると痛感しています。

文化や歴史も違い、その人の個性もまちまちなので、近所では政治的な話、対立しそうな話はしません。気候変動についての話も同じです。皆、「地雷」を踏まないように（社会的に言ってはいけない言葉を言わないように）している気がします。

Q6：今、平和について思うことは？

A：ウクライナをみて、こんな時代にこんな悲惨なことが？自分だったら？と考えてしまいます。本当に戦争は嫌だな、戦争ってこんなに簡単に始まってしまうのかと思います・・・。近所にはウクライナの人、ロシア人、などがいて気持は複雑です。出身地によって関係がぎくしゃくするのは嫌ですね。山崎豊子の「二つの祖国」や戦前にアメリカに渡った日本人の話、などの本を読み、政治によって人生を狂わされるのは嫌だと思います。しかし今の世界をみると平和って本当に難しいと痛感します。残念だけれど争いをしない人ばかりでないので・・・。

でも多くの人達は戦争を好まない筈なのに、何か衝撃的なことがあると、一線を越えるのが簡単になってしまう気がします。な

ぜかしら??

アメリカ初の黒人で大統領になったオバマ政権で世界が大きく変わるかと思いましたが、保険制度が少し変わったのみ。つくられたシステムを変えるのは容易ではないと思います。

Q 7 : 狛江市平和都市宣言を読んでの感想は?

A : すごく強い言葉で宣言していると思いました。この年は私が 2 歳のとき。戦争や核兵器への市民の嫌悪感がひしひしと伝わってきます。この精神は日本の中にあるのですね。アメリカではなかなか聞かれませんが。この精神は今、どの位の人たちが共有できているのでしょうか? こういう宣言って日本以外にもあるのかな? こうした宣言があると、その自治体でどういう行動するとかあるのでしょうか?

核兵器について、私自身は、長崎の被爆者・谷口稜暉（たにぐちすみてる）さんの背中ケロイド写真を見て、とてもびっくりした記憶があります。

子ども達や若い人々に平和について関心をもってもらうには、平和フェスタも子ども達が遊べるコーナーや講演の舞台、展示コーナーもあったりとお祭りの要素も取り入れたりして、大人のみでガチガチの催しでなく若い世代が参加しやすいフェスタにして、多くの市民と平和について考える場になっていったらいいですね。

Q 8 : 子育てで大切にしていることは?

A : 5 年生の子には、ウクライナのこと、BLM（*ブラック・ライブズ・マター）のことなど話し合うようにしています。人に対する

暴力的行為にどう対処するか、アジア人への差別も含め平和的に解決するにはどうしたらいいか？等。メディアについても、信じていい情報なのか自分でよく調べて判断してほしいと思っています。また母子の会話も、私（母）はこう思うけれどあなたは思う？とか、私の考えを押しつけるのではなくディスカッションを大事にしています。

兄弟げんかするときも同じように、どこに怒っているの？別の行動ないの？とか。学校ボランティアをしているとけんか早い子がいますが、やはり基本はコミュニケーションの力だと思うので。自分と異なる意見で対立した時に、平和的に解決する思考をもっていれば、武力で解決しようとする政治家を選んだり支持したりしないと思います。

Q9：これからについて思うことは？

A：無関心はよくないので社会の情勢をみていきたいし、考えていきたいです。

今は SNS などの情報があるので、世界の情勢がわかります。世界のひとりひとりが行動できる時代と思いますし、世論といっても国内だけでなく世界的になっていますね。私自身、今まだ、どう行動するかよくわかりませんが、子ども達には平和な世界に生きて、よいリーダーを選ぶ力を身に付けてほしいと考えています。

* BLM：アフリカ系アメリカ人のコミュニティに端を発した、黒人に対する暴力や構造的な人種差別の撤廃を訴える、国際的な積極行動主義の運動（Wikipedia より）